

キルギス政治・経済レポート

新キルギス NOW

(第1号:2011年5月~6月期)

*本レポートはROTOBOの協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBOの組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

【政治】

議会

政府は、現在20ある省・国家委員会の数を17に減らす行政改革を発表。新しい組織は、今国会（春~夏期）会期末までに承認されることが期待されています。組織改正の目的は、開発を実施する行政上の権限システムを創設すること、および主に一つの国家機関に関連する分野の活動を集中させて、一貫性のあるコンパクトな管理組織にすることであると政府の情報政策部は説明しています。現政府の公約した小さな政府、効率的な政府への動きが始まりそうです。改正の対象となる機関は、次の通りです。

1. 経済調整省が、経済発展と投資のための国家委員会へ
2. 農業省と水利・土地改良国家委員会を統合して、農業・食品産業・土地改良省へ
3. 労働・雇用・移民省と青年問題省を統合して、青年問題・労働・雇用・移民省へ
4. 文化・情報省は、文化・観光省へ
5. 国有資産省は、政府国有資産基金へ
6. 天然資源省は、産業・鉱物資源省へ

キルギス議会は、大統領選挙の日程を10月30日に決定。大統領選挙は、中央アジアで最初の議会制民主主義の構築を目指した憲法改正の完了にキルギスを近づけるために実施されます。オトゥンバエワ現大統領の任期は12月31日で満了する予定。同大統領は、暴力的な反乱でバキエフ前大統領が失脚した2010年4月から不安定な国家を指導してきました。

安全保障

国連開発計画（UNDP）は、ウズベキスタンとタジキスタンの貯水池やダムの水量が例年よりもかなり少ないとして、この厳しい水不足による綿花栽培や稲作への影響を指摘。水

不足による穀物生産への影響が食料価格の高騰を中央アジア地域にもたらし、すでにタジキスタンやキルギスの食料価格は20%以上も上がっています。農業灌漑の水不足がさらに食料価格の高騰を引き起こす可能性がでてきています。ウズベキスタンとカザフスタンでも食料価格の上昇抑制に取り組んでいます。一方、キルギスのトクトグル貯水池（中央アジアで最大）は、平均よりも多い水量レベルにあることから、水量の少ない貯水池に回すということもできると指摘しています。

【経済】

経済・多国間関係

ロシア、ベラルーシ、カザフスタン関税同盟への加盟は、現政権の優先課題の一つですが、ビジネス界など反対の声も。議会で関税同盟参加に強く反対しているのは、アタ・メイケン党ら野党側ですが、単に経済的にキルギス企業やキルギス経済に不利益をもたらすだけでなく、ロシアに依存する経済構造にもどってしまうことを政治的に懸念しているようです。一方、実業界からは、反対意見やリスクを比較検討したいといった慎重論が多く出ています。1998年旧ソ連諸国の中で最初にWTO加盟を果たしたキルギスは、関税同盟参加により他の貿易相手国（非同盟国）との関税が上昇することになります。国内製造業が未成熟なキルギスにとって、輸入品の関税が上がれば、消費者に大きな影響を与えることになるでしょう。また、衣料品製造などの輸出企業は価格競争力を失う心配があります。アタンバエフ首相は、関税同盟に参加すれば、国内企業の活動が活発化するだろうと説明しています。

一億ドルのカザフ・キルギス投資基金創設。6月8日、カザフスタン国民福祉基金「SK（サムルク・カズナ）」との間で、一億ドルのキルギス・カザフ投資基金を創設することが決まりました。この投資基金は、キルギスのエネルギー、通信、交通インフラ開発、製造業や観光などの事業に向けられる計画です。ババノフ第一副首相は、6月23日、キルギス政府関係者とカザフスタン国民福祉基金の代表を前に、「我々はカザフスタンと歴史的に隣人であり、何年もの間話し合ってきた課題があります。共同投資基金は、その第一のものです」と述べ、「ダトカ・ケミン送電線建設、水力発電事業、銀行部門への投資に期待します」と発言しました。

中国が、カザフスタンとキルギスの国境近くに2つの特別経済区を開設すると発表。2つの特別経済区（SEZ）は、カザフとの国境にあるコルゴスト、キルギス国境近くのカシュガルにつくられます。これにより、中国とキルギス、カザフとの取引が一層拡大すると期待されます。この2年、中国とキルギス間の貿易取引は、世界的な金融危機と昨年キルギスの政変が原因で国

境が閉鎖されたため、減少していました。在キルギス中国大使は、この特別経済区が、中国の西部地域の社会経済発展促進のために大きな一歩となると説明していました。4月の初め、ババノフ第一副首相が中国を訪問、この時、経済関係強化について幾つか中国政府から約束を取り付けています。

- ・ 2億2,000万ドルの投資基金を創設して優先事業に投資（国境の道路整備、南部の電力インフラ、農業開発など）
- ・ 3,000万ドルの経済・技術協力資金を贈与
- ・ China Development bank が1億3,600万ドルを融資
- ・ キルギスの水力発電所建設への投資

今年に入って、中国政府や企業からの投資が急拡大しています。キルギスと中国を結ぶ幹線道路の整備、鉄道建設計画、石炭・金鉱などの鉱山開発、水力発電所建設など、中国の西部地域の経済発展と密接に連動しています。

貿易経済関係の発展

国家統計委員会が発表した今年1～5月期のGDP成長率は+3.9%、インフレ率は+6.5%。

政府は、今年2月、2011年度GDP成長をインフラ建設投資が牽引して+6.2%と予測しています。また、世界銀行の経済観測でも、キルギス経済は脆弱で不安定ながら、ロシア、カザフ、中国などの好調な経済に支えられて、GDPは6%成長すると予測していますので、これらの予想よりも低い結果となりました。小売売上が+0.3%、建設部門が-13.9%と固定資産投資が振るわなかったために成長が抑えられたようです。インフレ率は、CIS諸国で平均+4.7%ですから若干高いようですが、足元5月には食品価格など落ち着いてきているとしています。しかし、企業（零細企業除く）の月額給与伸び率が、1～4月で+16%でしたので、インフレについては、要警戒です。一方、国家関税サービスの発表では、1～4月の貿易取引は+20%で、うち輸入が+24%、輸出が+12%の伸びでした。昨年比べ、特に関税同盟国（ロシア、ベラルーシ、カザフスタン）との取引が+12.6%と拡大しています。

投資政策・金融市場

6月10日、「ハイテク・パーク」法が承認される。ハイテク・パークの住民は地方税を含むすべての税金が免除され、5%の所得税と社会基金の支払だけでよいこととなります。従来、ソフト開発に携わるプログラマーは、海外からの特別な顧客の下請けなどで、報酬も相対的に低いことがありましたが、この法律によって、このような開発プログラマーの海外取引に競争力を持たせ、

事業を活発化させることになるだろうと期待しています。また、コールセンターについても、同じように十分なインセンティブとなると期待しています。

鉱業セクター

キルギス経済の主要な産業である鉱業セクターが停滞。政府は、前政権時代の反省から鉱業関連の規制を全面的に見直し中で、資源開発許可も2月から凍結されています。ライセンスを持っていながら、積極的に開発を進めていない非効率な会社を見直そうと閣僚委員会が調査していますが、時間がかかっているようです。鉱床開発事業は、中小企業が行っていることが多く、また初期投資金額も大きく極めてリスクの高い事業であることから、信頼性の高い規制の枠組みが必要となります。このため、投資家は新しい規制の動向に注目していて、事業をストップしているようです。また、業界を失望させるニュースに、4月、地質学に詳しい省職員を集団解雇したことがあります。政府は、時間がかかっても適切な規制と透明性の高い制度作りを目指していくとしています。もうしばらく産業界のいらいが続きそうです。

金融セクター

キルギスには、現在 400 以上のマイクロクレジット会社が活動中。市場は5~6社の寡占状態にありますが、マイクロファイナンスは、2010年末時点で、貸出総額3億4,000万ドル(前年比+25%)債務者数50万人以上に急成長しています。キルギス国立銀行によれば、マイクロ貸出利用者は、農村人口の5%にも達しているといわれています。中央アジアでの平均が1~2%であるので、キルギスの利用者数が非常に高いことがわかります。しかし、ほとんどの借入人の金利は、カザフの2倍で28~30%もの高利で借入しています。原因は、カザフの場合、海外ドナーから8~9%で資金調達ができますが、キルギスの場合は20~21%の資金コストがかかるためです。昨年の民族紛争以来、マイクロ貸出は農業向けが急拡大していて、50%が農業向け、事業向けが32.3%、その他消費者向け7.5%となっています(2008年では、事業者向け43.5%、農業向け36.8%)。来月、首都ビシュケクで、マイクロファイナンスの国際サミットが開催されます。金融が未成熟なキルギスにとりマイクロファイナンスに大きな期待が寄せられています。

エネルギーセクター

中国水利水申建設集団公司(Sinohydro)は、スウサムル川とココメレン川にカスケード水力発電所建設のフィジビリティスタディ開始。約20億ドルの水力発電所建設の投資を計画。2012年までにフィジビリティスタディを完了して、3基のカスケード水力発電所を5年かけて建

設、総発電量 13,000MW の電力生産を行う予定です。これは、現在のキルギスの発電量の 25%にあたります。

運輸・交通セクター

アジア開発銀行 (ADB) は、キルギスの首都ビシュケクと中国のカシュガルの間の幹線道路 60 キロメートルを補修するための工事費用 5,500 万ドルを貸出することに合意。事業は、中央アジア地域協力 (CAREC) が行います。CAREC は、中央アジア 5 か国および周辺諸国の貿易、輸送、エネルギーの接続を通して地域の協力関係強化を企図して設立された国際機関です。ADBによれば、「この道路は、中央アジア諸国を相互接続する 6 つの貿易経路ネットワークを網羅し、さらに周辺諸国へつながる。キルギスは中央アジアの中心に位置しているので、この工事は、「必須」のプロジェクトである」と説明しています。また、経済的な利点のほかに、交通安全にも効果が期待されているようです。

執筆者略歴

熊切一郎：1976 年一橋大学経済部卒、同年三菱信託銀行入社、香港、ロンドン、シンガポール勤務、主に国際金融開発、国際投融資業務を担当、2005 年三菱 UFJ 投信常勤監査役、2010 年 9 月より独立行政法人国際協力機構シニアボランティアでキルギス共和国大統領府が設立した Public-Private Partnership and Investment Promotion Center で投資アドバイザーとして活動中。